



令和4年1月31日

保護者の皆様

南アルプス市立櫛形西小学校
校長 小田切英史

令和4年度 後期学校評価の結果について

厳寒の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より本校教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、今年度の後期学校評価の結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を教職員による自己評価に加え、保護者の皆様や児童によるアンケート調査結果を利用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や日常的に行っている児童観察および意識調査も加味して分析し考えています。

【1】評価基準

全体傾向を把握するため、【A】【B】評価を肯定的評価とし、それらの合計が80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断しました。また、【C】【D】評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断しました。（A: そう思う B: だいたい思う C: あまり思わない D: そう思わない）

【2】全体的な傾向

児童・保護者・職員とも、肯定的評価の割合が多く満足できる状態だと言えます。しかし、前期と比較しますと、項目によっては若干その割合が減少しているものもあり、取組を再度検討する必要性を示唆しています。

〈児童において〉

【A】【B】の合計が80%を超えている項目は、17項目中14項目にのぼり、その内、11項目で90%以上の肯定的評価を得られ、全体的には良好な結果になっています。しかし、残り3項目「わたしは、家の人に学校の様子を話している。」（肯定率76%）「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」（肯定率70%）「わたしは、早寝早起きをしている。」（肯定率67%）においては、『改善の余地がある』状態です。

【D】評価に焦点を当ててみますと、ほとんどの項目に【D】評価が見られる結果となっています。前期と比較すると、その項目数は増えています。少数ですが、看過してはならないことだと言えます。

〈保護者において〉

後期においても、12項目中11項目で【A】【B】の合計が80%を超えています。さらに、その内10項目が90%を超える肯定的な評価になっており、満足できる状況にあると判断できます。前期の調査で懸念されていた【E】「わからない」という回答ですが、減少されてきています。しかし、「お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友だちがいますか。」については、前期より増加していました。また、「学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。」では、【E】「わからない」という回答が目立ちますが、前期より若干少なくなっています。似たような質問ですが、当事者か否かで「わからない」という状況が生まれてしまうことがわかります。たとえ自分の子供であっても、関わりを持とうとしなければ、子供への十分な理解ができないと言えらると思います。

前期同様、「ご家庭では、家族で互いにあいさつをするようにしていますか。」の項目で100%の肯定的評

価を得られていました。

〈職員において〉

すべて項目で【A】【B】評価の合計が90%以上の割合になっています。その内【A】評価だけで80%以上のものは13項目にのぼり、「十分にできている」と評価できる割合が、前期よりも高くなっています。また、否定的評価に目を向けると、前期と比べ同一項目ではありませんが、3項目においてのみ【C】評価の回答があるだけです。これらを総合的に判断すると、全体的に大変良好な状況にあるということができると思われます。

【3】個別の分析

(1)【確かな学力】にかかわって

学校の主となる教育活動の学習指導について、本校の教職員は児童に内容の理解が深まるように授業を大切にしていることが、教職員の自己評価の結果から推察されます。定着されつつある“山梨スタンダード”に沿った「授業の組立」、個々はその授業で何を学んだのかを確かめる「振り返り」、児童が内容を習得できたかを確かめる「見取り」を大切にしていることが結果に表れている結果となっています。どの学年でも同一歩調で授業が進められることは、進級しても安心感のある学習活動に繋がります。その安心感を基盤に、児童の主体的な学びに向かう姿勢を育てていると考えられます。培われてきた環境を大切にし、今後も継続した取組を行い、求められている対話的で深い学びにできるようにしたいと考えています。

児童の回答結果を見てみますと、前期と同様に「わたしは、学校の授業がわかる。」の結果は高い肯定率なっています。児童の多くが、日々の学習を十分に理解している様子がわかります。これは「わたしは、自分の考えをもって、他の人の話を聞いている。」の結果を反映しているものだと考えられます。しかし、「わたしは、授業中に自分の考えを伝えている。」では、肯定的評価はそれほど高くありません。集団討議等の学習活動に制限がされたからだと考えられます。自分の考えを持っているにもかかわらず、それを発表できなかつたり、新たな考えと出会うことができなかつたりして、児童の学習への深まりに影響があると思われまふ。GIGAスクール構想の下、1人1台端末が貸与され授業においても活用されてきています。児童に必要な力を育ていけるよう、授業形態を工夫していく必要があると考えられます。現在、高学年を中心に試行錯誤しながら進められているところですが、多くの学年で進められるように努めているところです。



また、個にあった丁寧な指導を行う必要性が読み取れます。すべての児童に「確かな学力」が身につけられるよう、限られた職員ではありますが、有効な手立てを講じて充実感が持てるような指導に努めていきたいと考えます。

保護者からも、学校での学習理解にある程度満足できているだろうと考えられる結果となっています。ただ、家庭学習については、保護者と児童の回答にズレが見られる結果となっています。児童によっては、十分ではないと判断しているのかもしれませんが、家庭の協力を得る中で、これまでの働きかけにより家庭学習は定着されてきていますが、児童が充実感や達成感のある家庭学習となるよう、今後も継続して家庭と連携して協力をいただきながら、学習した内容の定着や発展的な学習につなげられるよう取り組み、学力向上の一助となるようにしたいと考えます。

(2)【豊かな心】にかかわって（いじめに対する取り組みを含む）

“いじめ”に関わっては、9件が報告されています。前期と比較すると減少してきています。挙げられた件については、すべて担任が両者から十分な聞き取りを行って事実確認・状況把握をして適切な指導を行い、悪化することなく解決をされ、重大事態になるようなこともありません。聞き取りに際しては、相互に対して共感的に児童に寄り添いながら行い、公正な立場で状況を把握し指導を行ってまいりました。大人からしてみると些細なことが原因でしたが、その児童にとっては大きなものだったことを認めながら、今後の人間関係が良好なものになるよう働きかけを行っています。今後も「未然防止」「早期発見」「早期解決」を重点に置き、児童の様子に注視しながら軽微なものも見逃さず、良好な人間関係づくりに努め、誰もが気持ちよ

く学校生活を送れるようにしていく所存です。

挨拶については、本校でも重視している項目です。その肯定率から、3者とも意識して取り組んでいることが分かります。学校内外において、児童の挨拶がよく聞かれ、その礼儀正しさからも多くの高評価を得ています。



西小学校の良き伝統として、職員と上級生が手本を示し引き継いでいかなければならない大切なものだと考えます。今年度の児童会役員選挙においても、どの候補者もそれを公約として呼び掛けていました。「いつでも」「どこでも」「だれにでも」「自分から」そして「気持ちのよい」挨拶を定着させ、学校のみならず、地域においても挨拶の輪を広げられるような取組を進めていきたいと考えます。

本に親しむことは、知識を広げてくれるだけでなく心を豊かにしてくれると言われます。本校児童は、本に親しむことがとても好きです。年を追うごとに図書の貸出冊数は多くなっています。時間の合間を無駄にせず、本に触れあっている児童の姿をよく目にします。高学年になるにつれて、その嗜好の2極化が見られるようになりますが、体を動かすこととバランスをとりながら読書活動を充実させていく必要があります。司書を中心にした取り組みを今後も継続してまいります。

令和4年度から楡形西小学校は楡形中学校区小中一貫校としてスタートします。これまで取り組んできた「無言清掃」「靴そろえ」も一貫校としての取組の1つです。何事も一つ一つをしっかりと行うことが大切です。丁寧にきっちり行うことは、心の落ち着きをもたらし集中力も高めることができます。たかが「無言清掃」「靴そろえ」かもしれませんが、意識して行うことで「自律心」「愛校心」「責任感」が育っていきます。今後も継続して取り組み大切な「心」を育んでいけるよう働きかけたいと考えます。また、一貫校として埋もれることなく、その取組を大切にしながら、西小学校だからできる取組を実践し、西小学校や児童が生活している西地区に誇りを持てる心を育んでいけるようにしたいと考えています。

(3)【健やかな身体】にかかわって

「一日の活力は、朝食をしっかり摂ること。」と言われます。元気に学校生活を送るために、家庭でも朝食を欠かさず準備してくれ、児童もしっかり食べてきていることが結果からわかります。これまで啓発してきたことが定着してきたからだと考えられます。

“早寝”“早起き”も大切だと考えられますが、本校の児童をみますと、前期同様にそれが十分でなく、少し悪い方向に進んでいる結果になっています。前期において警鐘を鳴らしてきましたが、その取組が十分ではなかったと言えます。学校の取組だけで結果を残すことができません。児童に自覚を促し、家庭に協力を求めていくことで改善を図らなければならない項目です。このような状況になってしまう要因は様々考えられますが、児童の学校生活に支障がないようにするだけでなく、育ち盛りの児童に健やかな体の成長を遂げるためにも早急な改善が必要だと考えられます。

普段の児童の学校生活の様子からですが、多くの児童は休み時間等に外に出て体を動かしております。中には、汗いっぱいになって体を動かすことを楽しんでいる児童も見られます。そのような児童がいる一方、室内で過ごすことが多い児童の存在もあります。体力づくりの面からみても体を動かすこと大切さにも目を向けていかなければなりません。コロナ禍の中、新体力テストの結果から、子供の体力低下が明らかになってきています。西小学校の児童においても、種目によっては全国や山梨県の平均値を下回るものもあります。健やかな体づくりにも目を向けて取り組んでいく必要があります。



(4)【学校・家庭・地域との連携】にかかわって

教育活動を進めるには、家庭や地域との連携は必要不可欠です。このことに関わる質問について、保護者

からは前期と同様に90%以上の肯定的評価を得られており、連携をとった教育活動がなされていると判断できます。しかし、「学校には、お子さんのことで相談できる先生がいますか。」という項目では、満足できるものとはいえないけっかになっています。充実した教育活動や児童が安心して学校生活を送れるようにするためにも、学校は、家庭との距離が近くなるような関わり方をしていく必要があると考えられます。

それには、学校からの情報発信は必要不可欠です。児童の学校での様子や教師の思いが伝えられ、理解や共感してもらえることで信頼を得られると考えております。そのために、担任を含め様々な職員が学校の様子や思いを知らせるための“たより”を発行して、家庭との連携が深められるように取り組んでいるところです。“信頼される学校”づくりのために、情報発信を欠かさず行っていくことの重要性を十分理解し、より充実した内容を周知していけるように今後も取り組んでまいります。

また、“開かれた学校”にするために、これまで本校は、地域の人的資源や物的資源を活用し学習活動を進めてきています。後期においても、その学習活動は行われ、児童にとって有意義な学習活動になっております。西小学校は地域に支えられている学校です。地域を大切に考え、地域に関わってもらいながら教育活動を進めることを目指しています。そのような教育活動ができていくことに誇りに感じているところです。これは、また、児童においても地域に誇りを持つことに一役買っています。今後も地域と共に歩んでいけるよう、特色ある西小学校の学習活動として継続できるようにしたいと考えています。



(5)【情報端末】にかかわって

GIGA スクール構想の実現にともなって、今年度より導入され、児童一人一人に貸与されている情報端末ですが、過日の報道でご存じのように、貸与されている情報端末を介した事案が発生しました。本市においても危機意識を高め、セキュリティの面・監視体制を強化している状況です。市教委からの報告では、本校児童は指導された情報モラルを守り、学習以外の使用や不正使用は見られていません。

“携帯電話”“スマートフォン”の所有率について、前期と比べると、若干少なくなっています。学校においても、Society5.0の時代を生きていかなければならない児童たちに、安全に情報機器を使うことができるよう指導をしているところです。家庭においても、少しずつではありますが、トラブルに巻き込まれないよう“ルール決め”“フィルタリング”の定着が進んでいます。今後も100%を目指して児童への指導、家庭への啓発を継続してまいります。

おわりに、橿形西小学校の全児童がよりよい学校生活が過ごせるよう、また、充実した教育活動が展開できるよう、今回の学校評価をもとに改善に努めてまいります。これからも、変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。